

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400092		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホーム ひのき		
所在地	群馬県伊勢崎市境下湊名 1473		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしさを大切にしたケアを心掛けています。</p> <p>静かな場所にあり、屋外での活動も安全に行えます。</p> <p>地域の行事にも積極的に参加するように努め、近隣住民との交流を深めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>その人らしく暮らせるように、利用者の言葉や言葉にしづらい思いを日々の行動や表情等から把握し、本人の思いや意向を大切に生活支援がなされている。利用者の得意分野(歌・踊り等)を活かしたレクリエーションを実施している。個別に話を聞いたり、皆で楽しく過ごす時間をつくる等、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。食事が楽しみなものになるように、利用者の希望を取り入れた献立を作成し、栄養バランスに配慮した料理を提供している。地域住民との交流も深めながら、利用者が自分のペースで伸び伸びと暮らしているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時、職員で話し合い作成した理念の変更は無く、新入職社員には入職時に説明している。また、常に振り返れるよう事務所やトイレに掲示している。	地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を掲げている。管理者と職員は、会議や日常業務の中で、理念に沿ったケアができているか振り返り、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域の行事等を案内して頂いている。散歩などの時、地域の方と交流が持てている。今年は小学校の職場見学に協力した。	自治会に加入しており、区長等から地域行事の案内を頂き、祭り等に参加している。散歩時に地域の人から野菜・花を頂いたり、草むしりに来てくれる人もいる。小学生の職場見学の受け入れを行っている。地域の図書館を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症を理解して頂けるよう話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催、ホームの活動状況の説明、季節に合わせた情報(脱水症など)の提供をしている。また参加者から意見や要望、行事の紹介を受け、取り入れている。	運営推進会議は定期的に開催されている。運営状況や評価への取り組み等の報告を行い、震災時の対応・高齢者虐待・施設等について話し合いを行っている。そこでの意見や要望をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本社の担当者が定期的に市役所を訪問し、連携を図っている。必要な事は管理者や職員も情報を共有している。	ホームの実情を把握し、日頃から管理者と意志の疎通を図っている法人担当者が、報告や申請代行、相談等で市の窓口へ出向き、市の担当者と連携を図りながらサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でどのような事が身体拘束になるか勉強し、地域運営推進会議でホームの実状について情報を公開している。日中は玄関やホール、テラスへの窓は開錠、外へ出られたい方には、後に付き添い外へ出て頂いている。	「身体拘束その他の行動制限廃止マニュアル」を作成して研修を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。日中は玄関に施錠をせず、利用者が外出しそうな時は、職員が後から付き添い、安全に配慮をしている。リスクに関する家族等との話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待についての勉強会を行っている。職員間でも注意し合っている。推進会議でも情報提供の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象の入居者様がないので、必要時は、ケアマネージャーを含め相談に乗る体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に関することは書面にし、説明後納得してからサインをいただいている。また、疑問点など質問しやすいよう声掛けをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、本社や市町村の苦情相談の窓口を案内している。ご本人やご家族が話しやすい環境づくりを心掛けている。	運営推進会議や家族等の訪問時には、話しやすい雰囲気づくりに留意している。利用者や家族等との会話の中から、意向や要望を汲み取るようにしている。出された意見・要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換を行っている。日々の業務の中でも職員から管理者へ個人的に提案することもあり、必要があれば会議に上げている。	法人担当者・管理者は、職員会議等で意見や提案を聞くように努めている。日常の業務の中でも、職員から管理者へ個人的に意見・提案が出されており、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自分で立てた目標に対して自己評価を行い、管理者・本社担当者が再評価後、三者面談を行い賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の研修を行っている。毎月の会議で認知症の理解を深めるため一年を通しての勉強会を実施している。法人内外の研修にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外のグループホームと交流を図り、行事の情報を流し行き来している。連協の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族様や、関わっていたサービス担当者から情報をいただき、どのような問題を持っているのか予想して、本人との関係がスムーズにいくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、家出の様子をうかがいながら、ホームに望むことを聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、ケアマネと管理者が面談を行い、どのようなサービスを提供できるか説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔よくやっていた事を日常会話から聞き出し、ホームで実践している。 (おまんじゅう作り、うどん作り)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時、本人の日常生活の様子を伝え、関係が切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、友人や知人が面会に来ている方がいらっしゃるので、関係が切れないように環境作りを心掛けている。また、知り合いのいるグループホームに訪問し交流している。	友人や知人が遊びに来たり、知人が入居しているグループホームを訪問している。行きつけの店へ買い物に出かけたり、家族等と一緒に馴染みの美容院・日帰り温泉・墓参り等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者と関わり合えるような話題を提供したり、トラブル時は職員が間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを使い過去の生活習慣も把握し、日々の関わりの中で、本人の何気ない言葉などから、思いや意向を汲み取るようにしている。	フェイスシートを使用し、生活歴や生活習慣を把握している。言葉かけ等の工夫をして本人の何気ない言葉等から思いや意向を汲みとるようにしている。家族等からも情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や使っていたサービスの担当者から情報をいただき、フェイスシートをもとに把握に努めている。本人との会話の中でも把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切にし、“いつもと違う”という気付きを大切に、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜のプランの見直し時、毎月のミニカンファレンスで状態の把握に努め、面会時、希望の再確認をしながら現状に即した計画を作成している。	本人・家族等の思いや意向を聞き取り、職員全員で話し合い、それぞれの意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った分かりやすいケア記録を記入するよう努めている。カンファレンスで参考にしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時や個人の状況、要望に応じた支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議の時に区長、民生委員より地域の行事を紹介していただき参加している。また、消防署やボランティアと連絡を取り、協力体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族の意向を確認し、希望するかかりつけ医での診療が受けられるよう支援している。協力医が月2回訪問診療に来ている。	入居時に本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。協力医が月2回訪問診療に来ている。家族同行の受診・通院が不可能な場合には、職員が代行し、受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問のほか、状態の変化があった場合などは、24時間体制で看護師へ連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や看護師、必要時は主治医と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成している。入居時に説明し同意を得ている。状態に応じて事業所にできることを説明しながら、支援に取り組んでいる。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成している。入居時に本人・家族等に説明し、同意を得ている。状態等の変化に応じて本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを説明しながら方針を共有し、主治医及び関係者全員で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修に順番に参加し、ホームのAEDの点検を毎週行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難誘導訓練と年1回の消火器の訓練を行っている。スプリンクラー、火災通報装置を設置し、緊急時には地域の方に連絡がいくようになっている。	年2回、消防署の協力を得て、総合防災訓練や避難誘導訓練を実施している。地域に緊急時の協力を呼びかけ、地域住民を含めた緊急時連絡網を作成している。非常用の飲料水・食料品等の備蓄を行っている。	いざという時に慌てず確実な避難方法を身に付けられるように、避難誘導訓練の増加に期待したい。訓練の際には、地域住民にも参加してもらえると更によいのではないかと。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にした言葉遣いや対応について、職員会議の中で研修を行い、個人面談でも指導したり、職員同士でも注意し合っている。個人情報・秘密保持の徹底を図っている。	個々の尊厳を大切にした言葉遣いや対応について、年3回職員会議の中で研修を行い、個人面談でも指導している。日常的に職員同士で注意を合っている。個人情報については、秘密保持の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望や思いが出せるような声掛けや、会話の中で聞き出し、自分で決めたり納得して生活できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの生活リズムはあるが、個人の体調や気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は好みのものを選んでいただいている。理美容も馴染みのお店へ出掛けたり、訪問美容を利用する時も、本人の希望を細かく伝えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや力量に合わせ、テーブル拭き、食器拭き、野菜の下拵え、盛り付け等を職員と一緒にしている。入居者の希望を取り入れ献立を作成したり、まんじゅうや手打ちうどん作りをしている。	利用者の力量等に応じて、テーブル拭き・野菜の下拵え、盛り付け等を職員と一緒にを行い、共に食事を楽しんでいる。料理本の中から利用者に食べたい料理を選んでもらい、献立に取り入れている。手打ちうどん作りや外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックをしている。摂取量が少ない時は、好みの物や味に変えるなどの工夫をしている。好きなものをメニューに加えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり声掛けをし、必要に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわからない方には、トイレを探す様子があったら声を掛け、トイレまで案内している。	排泄チェック表を使用し、習慣や排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。個々のタイミングに合わせてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を大切にしている。失禁時の対応については、本人のプライドを傷つけないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取っていただき、チェック表で排便パターンを確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を設定せず、希望に合わせて支援している。拒否のある場合は仲のいい人と一緒に入浴してもらったり、誘導を工夫している。	入浴の曜日を設定せず、個々の希望や習慣に合わせて入浴支援を行っている。入浴拒否の場合には、仲がいい人と一緒に入浴してもらったり、声掛け等の工夫をしている。シャワー浴・足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調を考慮している。休息時は室内の湿度や光に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧を個人のファイルに保管し、いつでも見られるようにしている。薬の変更時や特に注意が必要な薬は、情報を共有して服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技や趣味を活かし(園芸や裁縫)、役割を持っていただいている。カラオケで歌ったり、踊ったり、散歩を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、テラスに出たり散歩に出かけている。季節行事、地域行事、他のホームとの交流で外出支援を行っている。ご家族様にも可能な方には外出をお願いしている。	天候の良い日には、テラスでの日光浴や周辺への散歩に出かけている。利用者の希望に沿って、買い物・ドライブ・季節の花見・外食等に出かけたり、地域の祭りや他のグループホームへ遊びに行く等、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい忘れなどで不穏になったり誤解が生じないよう、ホームで管理しているが、買い物時はご本人に支払っていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった方に対しては支援をしている(携帯電話可)。ホームから電話を掛けた時に、本人に代わって話していただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に写真や作品を掲示している。畳のスペースに座布団やまくらを置き、休息できるよう配慮している。	室内は明るく、清潔が保持されている。壁に利用者の写真や季節感のある作品を飾っている。観葉植物を置き、花柄のテーブルクロスを使用する等、居心地よく過ごせるような工夫をしている。畳のスペースに座布団や枕を置き、休息できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合った方同士で話したり、ソファーでくつろいだりしている。畳のスペースは座布団があり、いつでも休めるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や装飾品を持ち込んでいただくよう働きかけている。	各居室には、整理箆笥・衣装ケース・衣装かけ・時計・家族の写真・椅子・人形等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すりを設置したり、段差のない工夫をしている。		